

令和2年度 エイズ総合対策推進会議議事録

開催日 : 令和3年(2021年)1月15日(金)

開催場所: 新型コロナウイルス感染症のため書面により開催

出席委員: 20人(順不同、敬称略)

松下修三(会長)、前田ひとみ(副会長)、久保昌子、杉野茂人、田中弥興、丸目新一、井手州子、椎葉浩亮、夏木良博、卯野木妙子、福島隆弘、猪本浩之、中山知栄子、宮崎奈那海、吉村譲二、川田晃仁、柿田将博、森紀子、高山いくこ、川口弘蔵

●次第

- 1 会長・副会長選出
- 2 議事

- (1) 熊本市エイズ対策事業令和元年度報告について
- (2) 熊本市エイズ対策事業令和2年度計画について
- (3) その他

●概要

1 令和2年度熊本市エイズ総合対策推進の会長及び副会長の選出について

会長に熊本大学エイズ学研究センター松下修三教授、副会長に熊本大学大学院生命科学研究部前田ひとみ教授が全員一致で選出された。

2 議事

(1) 熊本市エイズ対策事業 令和元年度報告について

報告案については全員一致で承認された。

(意見、質疑等)

【井手委員(熊本県看護協会)】

感想ですが、正しい知識の普及啓発においては、必要な対象に焦点をあて様々な啓発活動をされていることを改めて確認致しました。特に熊本市13の中学校への出前講座で1606人の生徒へ性感染症予防講座を開催されていますが、青少年への啓発は重要と思います。県看護協会も令和元年度に、地域における性教育出前講座を中学校29校2507名、高校4校491名を実施しております。今後もこの取り組みは、次世代を守るために必要と考えます。

【卯野木委員(熊本県私立中学高等学校保護者会)】

H30年の特例臨時検査実施は6月、12月、3月→H31年度(R元年度)の特例臨時検査実施を6月、9月、12月とされたのはどうしてなのか、疑問に感じました。検査を受ける対象年齢が20~30歳代が多く、若い年齢層はイベントをととても重視する傾向があると思います。例えば、7月七夕、10月ハロウィン、12月クリスマス、忘年会、同窓会、1月新年会、2月バレンタインなどで、検査を受けたいと思うのは、このようなイベントで接触後になるだろうと予測すると、3月の実施をしてはどうか?と思いました。

【事務局(感染症対策課)】

特例臨時検査については、基本的には6月の検査普及週間、12月1日の世界エイズデーに合わせて実施し、HIV検査は感染の機会があつて3か月以上たつてからの検査で「陰性」ならば感染していないと考えられることから、R元年度は9月と3月も実施予定で計画していました。しかし新型コロナ発生対応でHIV検査を中止していたため3月は実施できませんでした。

【森委員(熊本日日新聞社)】

当事者サークル「Safety Blanket」や、ピアエデュケーター「くまぴあ」との協働など、感染リスクの高い人や若者に情報を届ける工夫と努力を重ねられている点が非常に良かった。特に、「Safety Blanket」の協力によるHIV検査の案内ページはわかりやすく、検査に対する心理的なハードルを下げるよう表現にも工夫が感じられ、好感を持った。(蛇足ですが、「くまぴあ」の説明文で2か所「養成過程」とあるのは「養成課程」だと思います。)

【前田副会長(熊本大学大学院生命科学研究部)】

報告書1ページ目の「青少年」のピアエデュケーターとの協働の養護教諭養成過程は養成課程の誤りです。

【事務局(感染症対策課)】

ありがとうございます。修正します。

(2) 熊本市エイズ対策事業 令和2年度計画について

計画案については全員一致で承認された。

(意見、質疑等)

【前田副会長（熊本大学大学院生命科学研究部）】

新しい生活様式を踏まえた研修方法、教育媒体の作成が必要だと考えます。Safety Blanketや大学生と協働したプログラム作りに取り組んでいただきたいと思います。

【井手委員（熊本県看護協会）】

相談検査体制に関してですが、令和元年度の実績（相談数・検査数、メール予約数）が平成30年に比べ増加傾向にあり、不安を抱えている人が増えていると思われます。新型コロナ禍での活動はなかなか大変と思いますが、計画が可能な範囲で実施できますことを期待します。

【卯野木委員（熊本県私立中学高等学校保護者会）】

今年度は新型コロナウイルスの影響で検査を受ける人も減少したのではないかと思います。1人で抱え込まず、インターネットで検索し、わかりやすく、検査申込→検査方法・手順→結果報告まで理解できることが重要で、検査相談しやすくなることを望みます。夜のお店の責任者を通してパンフレット配布されていますが、検査チケットのようなものを一緒につけることで、検査に対する意識も前向きになるのかな？とも感じます。早期発見、早期治療に繋がっていることはすごいことだと思いました。

【森委員（熊本日日新聞社）】

コロナの影響で学校への講師派遣や出前講座などの開催が難しい状況となっている。「新しい生活様式を踏まえた実施方法の検討」を重ねられていることと思うが、元年度に引き続き、高リスク者や若者らにしっかりと情報が届く仕組みを構築してほしい。オリジナルDVDの作成を検討されているようだが、経験上DVDディスクを再生する「ひと手間」が視聴の妨げになる可能性があるため、Youtubeでの配信など手軽に視聴できる手段も検討してもらえればと思う。また、検査体制も縮小するように読み取れるが、（通常検査は休止、メール予約受付は聴覚障がい者に限定？）検査数の減少につながらないか心配だ。平成31年の実績では、メールでの問い合わせは278件、予約成立数は178件あり、即日検査の2割を占める。どの程度の影響を見込み、検査機会の縮小につながらないようにするために、どのような対策を考えておられるのかお尋ねしたい。

【事務局（感染症対策課）】

新たに設置された新型コロナウイルス感染症対策課に引き継ぐまでは、当課中心に新型コロナウイルス感染症対策を行い、HIV検査を含めた当課の他の業務はほぼストップし、課のメールもコロナでパンク状態でした。その後も保健所自体がコロナ対応体制となっており、残念ながら人員的にもスペース的にもHIV検査枠を大幅減でしか再開できない状況です。コロナ対応状況次第では急遽中止もあり得ることから予約可能期間を翌週までとしており、予約成立に時間を要するメール予約対応は難しく、原則電話のみとしています。オリジナルDVDについては、学校等への出前講座に替わるものとして年度内の配布を目指し現在作成中です。皆様方からのコロナも見据えた啓発等の御提案等も踏まえ、進めていきたいと考えています。

(3) その他

【松下会長（熊本大学ヒトレトロウイルス学共同研究センター）】

コロナ禍において全国的にHIV検査・相談件数が減っていると聞いています。また、熊本において発症例が増加しており、何らかの対策が必要と考えています。

【久保委員（熊本大学大学院教育学研究科）】

書面会議とのことで、委員としての役割を果たせず申し訳なく思います。今後はリモートでの開催が望ましいと思います。いただいたCD-ROMは拝聴いたします。有難うございました。

【丸目委員（熊本市薬剤師会）】

どんどん増えていきますので、社会を巻き込んだ対策が必要と思われます。（コロナに注目が集中しています）

【井手委員（熊本県看護協会）】

この委員会への参加は、講話及び貴重なデータで学びになり、熊本市及び各団体の地道な活動が、HIV感染、性感染症等を減少させていくことにつながっていくことを実感させられます。この学びを団体の活動に生かしたいと思います。

【卯野木委員（熊本県私立中学高等学校保護者会）】

梅毒が多くなっていることに驚きました。女性は検査となればいろいろと考えるものです。子宮がん検診も20代の頃はしようと思わなかったもので、無料チケットがあると検査しようという意識になったりします。・・・ですので、若い20代、30代の女性が検査をすんなり受けれるような工夫、チケットやカードタイプのものを配布し、アクセスしたり、電話したりできやすい環境を作っていければありがたいです。

【森委員（熊本日日新聞社）】

報道に携わる者として、反省を含めて言うと、ここ数年、HIV感染やエイズについて取り上げる機会が減っている。エイズのように長く継続している問題については、「書きどき」を搜している状態なので、勝手ながら、報道する「きっかけ」を提供してもらえるとありがたい。例えば、6月の検査普及週間や、12月1日の世界エイズデーに合わせて、エイズをめぐる熊本県内の現状と検査のPRを盛り込んだリリースを出すなど（やっておられるかもしれませんが…）してはどうでしょうか。また、ここ数年、梅毒患者が県内でも急増しています。性感染症が身近な問題であり、人ごとではない「自分事」であることを、さらに印象付けられるように、啓発に力を入れる必要があると思います。

【川口委員（Safety Blanket）】

コロナ禍にあり、ハイリスク層に従来のアプローチしてきた方法（ゲイバーへの啓発訴求）が難しい状況になっている。個人的にもSNS等で発信を行うが、行政のアカウント（熊本市等）からも積極的に検査に関する情報を発信してほしい。新型コロナ感染者に対する偏見や差別を減らすためにも、HIV感染者が過去に受けてきた差別を知ることは意味があると思うので、併せて感染症の啓発に活用していただきたい。重なる部分があることを知ってもらうことで、HIV・エイズと新型コロナ共に理解が深まると思います。

【事務局（感染症対策課）】

現在、保健所自体がコロナ対応体制であり、HIV検査体制（無料・匿名）を縮小せざるを得ない状況です。また、現状では出向いての啓発活動も難しく、皆様方からの御意見や御提案も踏まえ、コロナ禍でのより効果的な啓発方法についても検討をすすめてまいります。なお、配布物として、「くまびあ」「Safety Blanket」にも御協力いただきコンパクトなパンフレットやカード（QRコード入り）等を作成しており、ポケットティッシュやコンドームと一緒に配布しています。委員の皆様方からの御質問や御提案等ございましたら、随時御教示いただければ幸いです。